



1 + 1 = ∞ (無限大)

千

字 万 感

三菱日立パワーシステムズ株式会社中部支社
支社長 藤田 慎一

弊社、三菱日立パワーシステムズ(株)(MHPS)は三菱重工業(株)と(株)日立製作所の火力発電システム事業を統合して、2014年2月に誕生した会社です。三菱から長崎、高砂、横浜の各工場、日立から日立工場と2015年10月には旧バブコック日立の呉工場も引き継ぎ、国内5工場体制に、更にフィリピン等海外工場も合わせた生産体制で、ガスタービンや蒸気タービン、ボイラや地熱発電等の電力インフラを国内外に提供しています。

「火力発電・環境技術で地球の未来を明るくする。」という社のビジョンと共に、設立当初に定めたステートメントのひとつが表題の「1 + 1 = ∞」です。三菱、日立両社の技術力と製品ラインアップで互いに補完しあい、シナジー効果を最大限に発揮して、海外競合他社に伍していくという、決意が込められています。

三菱と日立の社風の違いをよくご指摘受けますが、三菱重工は岩崎弥太郎が官営長崎造船局を借用した時に始まり、日立は小平浪平が日立の創業小屋でモーターを製造した時に始まりました。両社ともそれ以降、技術を研鑽し、社会の発展に貢献する各種インフラを提供することを生業として、歩んできました。同じ目標を持つもの同士、非常に親和性があり、融和は着々と進んでいると感じています。

統合の苦勞もありました。例えば「予算」という言葉をはじめ、用語の意味が両社で異なったり、就業時間からして異なる人事制度を、2年かけて漸く統一できたりと、コーポレート、組織改革を含めて、1 + 1を「無限大」にする努力を今も継続中です。

我々が提供する電力インフラは納入すればおしまいではなく、数十年にわたりお客様に維持、運用頂くものです。定期的な修理、点検等のアフターサービスを提供することも我々の重要な使命であり、新設とサービスの両輪を回していく営業スタイルは三菱、日立に共通のものです。

支社の行動指針として「感謝しよう!感謝してもらおう!」というフレーズを掲げています。お客様に感謝して頂くことが大事なのはもちろんですが、お客様との永いお付き合いの中で、私共もお客様に感謝し、感謝を表し、感謝の連鎖の中で、社会インフラの充実に貢献していきたいと考えます。